



謎多き空白の4世紀

日本の歴史について学ぶ時、神話・考古学・国号という三つの視点から、日本の誕生と国家形成の歩みを多面的に考察することが必要です。初代天皇の即位から始まる伝統的な歴史観に加え、三世紀以降にヤマト政権が築いた広域国家の成立過程や、「日本」という名称の確立期について様々な観点からの検証することで、歴史が見えて来るのではないのでしょうか？ また、現存する最古の歴史書である『古事記』と『日本書紀』を比較し、編纂の目的や表現様式の決定的な違いを浮き彫りにして、さらに中国の史書に記された卑弥呼や邪馬台国が、国内の歴史書においてどのように解釈され、あるいは投影されているかを辿ると、歴史の謎にもたどりつきます。

日本が独自のアイデンティティを形成し、世界で最も長く続く国家としての地位を確立するまでの軌跡を、グローバルに俯瞰することによって、真実に近づけると思います。



日本の歴史、謎の4世紀：「邪馬台国」と「ヤマト政権（ヤマト王権）」の関係や歴史的背景について、以下の3つの視点から考察してみます。

1. 歴史学・考古学から見た「邪馬台国」と「ヤマト政権」

実際の遺跡や中国の歴史書といった客観的なデータから見ると、両者は日本の国家誕生における重要なステップとして位置づけられています。

- 邪馬台国(3世紀前半～半ば) 中国の『魏志倭人伝』によると、女王・卑弥呼が30ほどの小国をまとめ、連合王となっていました。この頃から、それまで乱立していた地域勢力がひとつのまとまった政治勢力(国家)としての意味合いを強め始めます。
- ヤマト政権(3世紀後半～4世紀頃) 本州の大部分をカバーする巨大な政治勢力へと発展した姿です。
 - 3世紀後半：奈良盆地を中心に、各地の首長を従えるほどの強力な中央政権が誕生しました。
 - 4世紀頃：九州から関東にかけて、同じ前方後円墳という形の古墳が次々と作られるようになり、広範囲な連合国家としてまとまっていきました。

【歴史のつながり・最大の謎】 奈良県桜井市にある巨大前方後円墳**「箸墓(はしはか)古墳」**は、考古学の観点から「卑弥呼の墓ではないか」と言われている最有力候補です。同時にこの古墳は、ヤマト政権(強力な中央政権)が生まれた証拠ともされており、邪馬台国とヤマト政権が地続きである可能性を強く示唆しています。

2. 『日本書紀』における邪馬台国(卑弥呼)の扱い

海外(中国)への体裁を意識して作られた公式の歴史書『日本書紀』ですが、実は本文に「邪馬台国」や「卑弥呼」という名前は一切登場しません。しかし、中国の記録を無視するわけにもいかないため、非常に奇妙な形で引用されています。

① 卑弥呼を「神功皇后」に重ね合わせた

日本書紀の編纂者は、第14代仲哀天皇の妃である「神功皇后」の記録の注釈(補足)として、中国の歴史書に書かれた「倭の女王(卑弥呼)」の朝貢記録をそのまま引用しています。

- **なぜ固有の名を隠したのか？(外交的恩恵)** 当時の中国(唐)に対して「日本は昔から一君万民の立派な国だ」とアピールしたかったため、「天皇家とは違う別の王(卑弥呼)が支配していた」と突っ込まれないよう、天皇家の系譜の中に回収しようとしたという説があります。
- **タイムラインの矛盾** 実際の卑弥呼は3世紀半ばの人物ですが、日本書紀の年代設定では神功皇后は4世紀後半～5世紀初頭の人物とされており、約120年もの大きなズレ(矛盾)が生じてしまっています。

② もう一人の卑弥呼候補「百襲姫(ももそひめ)」

名前こそ出さないものの、記述内容が『魏志倭人伝』の卑弥呼と驚くほど共通している、第7代孝霊天皇の皇女「倭迹迹日百襲姫命(ヤマトトヒモモノヒメノミコト)」という女性も登場します。

3. 「倭(わ)」から「日本」へのステップ

国家としてのまとまりが強まるにつれ、対外的な呼び名も変化していきました。

1. **中国から見た「倭」:** 元々は自分たちで名乗ったわけではなく、中国側から見た「小柄な人」「従順な人」といった意味の呼び名でした。最初は散らばる小国家群を指していましたが、やがて邪馬台国やヤマト政権という「ひとつの国家」を指す言葉になります。
2. **国内でのアレンジ「和」:** ヤマト政権によって国内が統一されると、「倭」という漢字はあまり格好良くないため、同じ「わ」の音で調和を意味する「和」の字を当てるようになりました。
3. **完全リニューアル「日本」:** 7世紀後半(天武天皇～持統天皇の時代)、天皇を中心とした律令国家を整える中で、中国と対等に渡り合うために他国からの呼び名を卒業し、自ら「日本」という国号を制定しました。702年の遣唐使の際に、公式に改名を伝えています。

【総括】 国内向けの物語である『古事記』には卑弥呼を連想させる記述すら完全にスルーされていますが、中国の記録と辻褃を合わせようと奮闘した『日本書紀』だからこそ、形を変えてヤマト王権の歴史の中に邪馬台国の影が残されることになったと言えます。

日本の誕生: 神話が語る紀元前660年か、巨大古墳が築かれた3世紀後半か、あるいは「日本」という名が生まれた7世紀末か。あなたはどの時点を、この国の「本当の誕生」だと考えますか？

